

授業科目名	英語	教員名	石濱 博之	免許・資格との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	選択
授業形態	講義	担当形態	単独		保育士	選択
					こども音楽療育士	
科目番号	KY0209	配当年次	2年後期	卒業要件	小幼コース	選択
単位数	2単位				幼保コース	選択
科目目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語					
一般目標	<p>人間はどのようなプロセスを経て母語以外の言語を習得するのでしょうか。「幼児は難なく言語を獲得しますが、成人になってから流暢に話せるようになるには大変な努力が必要である。」といわれているが、はたしてそうだろうか。</p> <p>人間が母語、第二言語、外国語を習得するプロセス、そのプロセスに影響を及ぼす様々な要素について理解を深める。</p> <p>初等英語教育に向けて、児童はどのように言語（特に、英語）を習得し、学習し、身につけるのか？そして、その知見を考えながら小学校英語を考えてみよう。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語を習得することを理解し、指導に活かすことができる。 2. インプットからアウトプットに進む第二言語習得のプロセスを理解することができる。 3. 第二言語習得を促進・阻害する要素、及び効果的な学習方法を理解し、指導に活かすことができる。 4. 国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきを理解することができる。 5. 第二言語習得と関連する外国語（英語）教育で使われる教授法と関連させながら、その教授法を使えるようにできる。 					
授業の概要	<p>児童期の第二言語習得の特徴について理解すると共に、2020年度から小学校中学年で「外国語活動」の必修化、高学年で外国語（英語）の教科化されることに伴い、小学校段階における言語習得に関する知見を学び理解して、小学校英語教育をするための指導力に応用する。具体的に、第二言語習得の概略、プロセス、インプット、アウトプット、動機付け、学習方略、言語習得と教授法などを学習する。授業は、講義だけではなく、質疑応答をしたり、発表・報告をしたりする。グループになり、グループで話し合い、グループで関心のある項目について発表をする（アクティブ・ラーニング）。また、講義の中で特に関心を持った事柄を各自が選んでより深く調べる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置されている。</p>					
授業計画	<p>第1回： 授業の概要（授業オリエンテーション）—言語習得、英語、及び英語教育について考えてみよう。</p> <p>第2回： 第二言語習得とは何ですか。第二言語習得の概要を捉える。</p> <p>第3回： 第二言語習得のプロセス—なぜ日本人は英語ができないのか。日本語と英語の様相を考える。</p> <p>第4回： 言語習得の第一歩—インプット—ことばをインプットすること（「聞くこと」「詠むこと」）について学ぶ。</p> <p>第5回： 言語習得—アウトプット—ことばをアウトプットすること（「話すこと」「書くこと」）について学ぶ。</p> <p>第6回： どのような人が第二言語学習に向いているか 言語習得と（人の）内向性・外向性などを考える。</p> <p>第7回： 言語学習における動機づけ 動機づけの概念を知り、指導に応用する。</p> <p>第8回： 言語習得—臨界期仮説— ことばを学ぶ際の臨界期について学ぶ。</p> <p>第9回： 言語習得と学習方略（英語学習方略（英語達人の英語学習も含む））どのような学習方略があ</p>					

	<p>るか。)</p> <p>第10回: 言語習得と教授法の概略と言語習得と教授法ー日本で有名な教授法オーラルメソッドの概要やナチュラルアプローチの概要を学ぶ。</p> <p>第11回: 英語習得と小学校英語教育で使える教授法ートータルフィジカルリスポンスの概要やCILILなどの概要を学ぶ。</p> <p>第12回: 「教室での第2言語学習」についてグループで検討してまとめる(アクティブ・ラーニング)。</p> <p>第13回: グループ内でまとめた内容を発表(1)と討論(アクティブ・ラーニング)</p> <p>第14回: グループ内でまとめた内容を発表(2)と討論(アクティブ・ラーニング)</p> <p>第15回: グループ内でまとめた内容を発表(3)と討論及び全体のまとめ(アクティブ・ラーニング)</p> <p>定期試験</p>
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト(語彙)(10回)10%及びe-learning10%(10%+10%)、課題提出(4回)20%、グループ発表10%、定期試験50%、規定された授業出席日数(必修) ・省察カード及び課題に対しては、講評の形でフィードバックする。提出した省察カード及び課題は返却するので、事前学習や事後学習に活用すること。
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前に次回で取り扱う項目を示し、具体的に読んでくるとよい参考資料を提示するので、様々な場所(例えば、図書館)で確認しておく。 2. それぞれのテーマに関連する専門用語を調べておく。 <p>事後学習:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で配布したサブノートを使い、内容を復習・確認することと同時に、省察カードも読み直す。 2. 授業で分からなかったことや疑問に思ったことをまとめる。 3. 重要項目(ポイント)をまとめる。
テキスト	<p>プリンティング・マテリアルを配布する。</p> <p>西谷恒志編『THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC TEST 改訂版』成美堂</p>
参考書・参考資料等	<p>『小学校学習指導要領(『小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 外国語活動外国語編』(文部科学省著 開隆堂出版(2018))</p> <p>白井恭弘.(2008)『外国語学習の科学』岩波書店.</p> <p>バドラー後藤裕子.(2015)『英語学習は早いほど良いのか』岩波書店.</p> <p>白井恭弘.(2012)『英語教師のための第二言語習得論入門(改訂版)』大修館書店.</p> <p>白井恭弘.(2013)『ことばの力学』岩波書店.</p> <p>鈴木孝夫.(1999)『日本人はなぜ英語ができないか』岩波書店.</p> <p>寺沢拓敬.(2015)『「日本人と英語」の社会学』研究社.</p> <p>久保田竜子.(2018)『英語教育幻想』筑摩書房.</p> <p>江利川春雄.(2022)『英語教育論争史』講談社.</p>
担当者からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業(講義)に集中されたし。 ・ できるだけ英語に触れてください。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月曜日4校時 研究室 ・ メールでも対応します。